

餘寒之歳くも霞

道内安座為國家者其

儲 白き至(即富田者之事)

及地方行政改良等の

件の関し一 樓々思見陳

述仕致 然る高梅と頌

一 其 夢望有る幸

好天氣の付り初の節節

各都の仕り交り以て夕

よりの痛を其の痛を

山の華を其の世を

百般の事人に存り人

存すれは其の政事は

存すれは其の政事は



山崎の筆を習ふは世に
百般の事人に在りて人
をすれは其の爲に事なるは
言ふに事なるは言ひ終る
十分の事計の由事なり
如坐るも人心大に供のみ
時様茲に迫る日まに
吾等を来或部分の
彌縫姑且事なれば
の心事来あるか如れば
あり 事なるは世に
事深く思はるは事なり
昨日の午後抄の事なり
相方氏に面話せり事なり
すらす所の大社に事あり
にお世に事なるは事なり
ゆへに能く事なるは事なり
事なる彼の事なるは事なり
事なる事なるは事なり

之能く強き事也
彼の成る事
なる事ありては
あふ事ありては
二属する事ありては
之申述す事あり
言ふ事ありては
強く之を言ふ事あり
同文の古書ありては
之ありては
之の言ふ事あり
而して之を言ふ事あり
至は此の言ふ事あり
之ありては
之ありては
之ありては

三山は...の...

「梅翁の...

有る...

根本的...

カ...

之...

祈...

の...

其...

暗...

す...

そ...

の...

も...

い...

官...

病...

欲...

て...

の...

てしてふお叶事との
富田君の事この地を
柳はもう始富田君
飲点種葉大子二送
てはま中結くつ由
の江もおるまのこ
まの付一書用評と
おるまの地におまの
取すの地及に何
已の地熱地を
心離根結者種性
まの地科一
國家の日本を
二月二十一日

直林

大隈 大見研北

東松浦郡鏡村長
瀬戸秀藏



大隈重信殿
親展



鐵

錫

島直

林

〃